

久美高生の作文が新聞記事に②

～ 2 年生 授業で「環境問題」を考える ～

1/19(水)

選択科目「環境科学」で、2年生が環境についての作文を書きました。

書いた作文は昨年度に引き続き京都新聞のオピニオン・社説欄「窓 読者の声」に投稿しており、掲載されたものを紹介します。

＜平成 22 年度 京都新聞＞

ポイ捨て皆でやめよう

京丹後市・松井 知紗(高校生・17)

最近、ごみをポイ捨てしている人をよく見かけたり、ごみが道に落ちていて散乱していたりしているのをよく目にします。もちろん私も、ポイ捨てをした経験が少しあります。でも、よく見てみると、ポイ捨てしたごみが海や川に流れ、魚や水の中に住む生物に被害が及んでいきます。山では、ポイ捨てされたごみを動物が食べて、被害が及んでいます。その結果、町や村も汚く

なって、場所によっては、木や草などの植物が枯れています。そうやって、どんな地域が汚れていくのだと思います。だから私たちができることは、一人一人が意識して少しずつごみを捨てなくなると思っています。今後は、私もポイ捨てをしないようにしようと思えますし、みんなが少しずつ、身近な自然や町、そして地球を守っていったらいいと思います。

11/24 (水)

砂浜にごみ捨てないで

京丹後市・坂下 桃香(高校生・17)

私は京丹後市の網野町に住んでいます。自転車で行くところには海があり、夏には、友達や家族とよく海へ遊びに行きます。夏には、都会からたくさん海水浴客や観光客がきてにぎわいます。私はこの網野の海が大好きです。海の中にはたくさん魚などがいて、岩場には貝やカニなどがいます。田舎で何も無いところですが、海は自慢できると思います。しかし、いいところはかりではなく、悪いところもあります。一番気になることは、砂浜にごみが散らかっていることです。私は小さいころから、海に連れて行ってもらうことがあります。しかし年々ごみが多くなっている気がします。

砂浜でバーベキューをしている人を見かけます。そして、翌日そこに行くと、炭や食べかす、ごみなどが

砂浜に散らかっています。ひどい場合は、バーベキューセットそのまま置き去りにされています。「この自慢の海を汚してほしくない!」。いつもそう思います。

ごみが増えると、海の生き物にまで害が及び、その生き物が死んでしまつと、海が今より汚れて、悪臭なども出てくると思いますが、汚い海にはしてほしくないです。美しい丹後の海を守っていきたいと思います。

12/15 (水)

海辺にごみ捨てないで

京丹後市・西村かおり(高校生・17)

皆さんは最近、海を見たことがありますか? 大抵の人が思い浮かべるのは、テレビなどで見る、色の澄んだきれいな海だと思えます。しかし、きれいに見える海でも水質汚染が進んでいるので、海辺にはポイ捨てされたごみ、打ち上げられたごみがたくさんあります。私は海の近くに住んでいるので、海に行くたびに悲しくなります。

地元のお年寄りの方が、たまに清掃に来ておられますが、ごみはなかなか減りません。でも、私たち一人

一人が、少しずつでもいいから「ごみを捨てない」ことを心掛けていけば、海や浜辺はきれいになっていくと思えます。

海は果てしなく広いので、その海を守るために、できることはたくさんあります。海や浜辺、川などにごみを捨てないでください。そして、生活排水を減らす努力をしてください。生命をはぐくみ、はるか昔から生きてきた海を、私たちは守っていかねければならないと思います。